



「我々は何故お米を作るのか？」

お米は日本人の礎だからです 「見沼の里」



1. 日本農業の現状

5年後に日本の食糧を支える
農業従事者は...

激減の危機！

新規就農者数
約5万人

50歳未満約1.6万

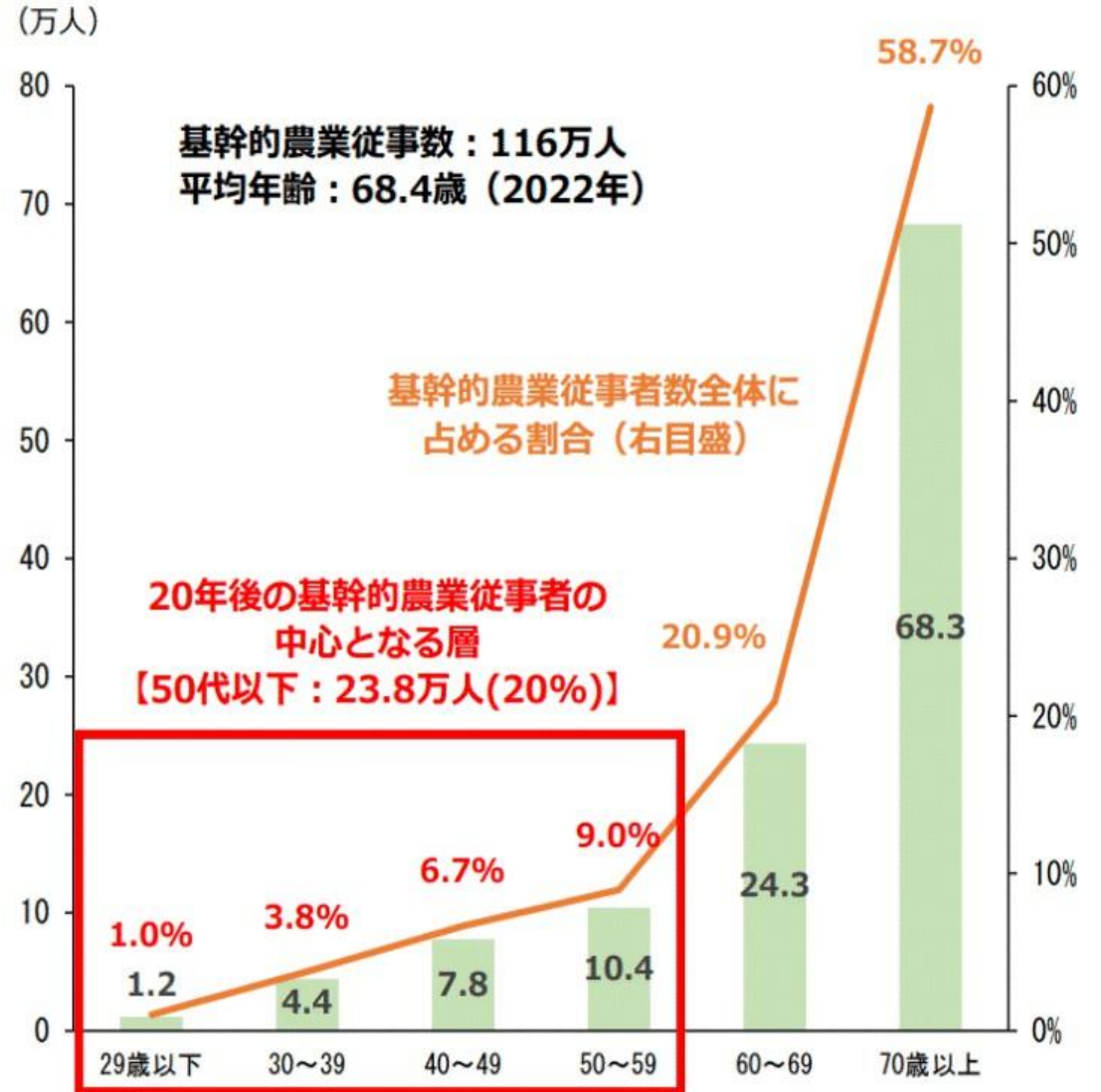


年間減少数
約6万人

2030年の農業人口

約80万人(約66万戸)

基幹的農業従事者数の年齢構成 (2023年)

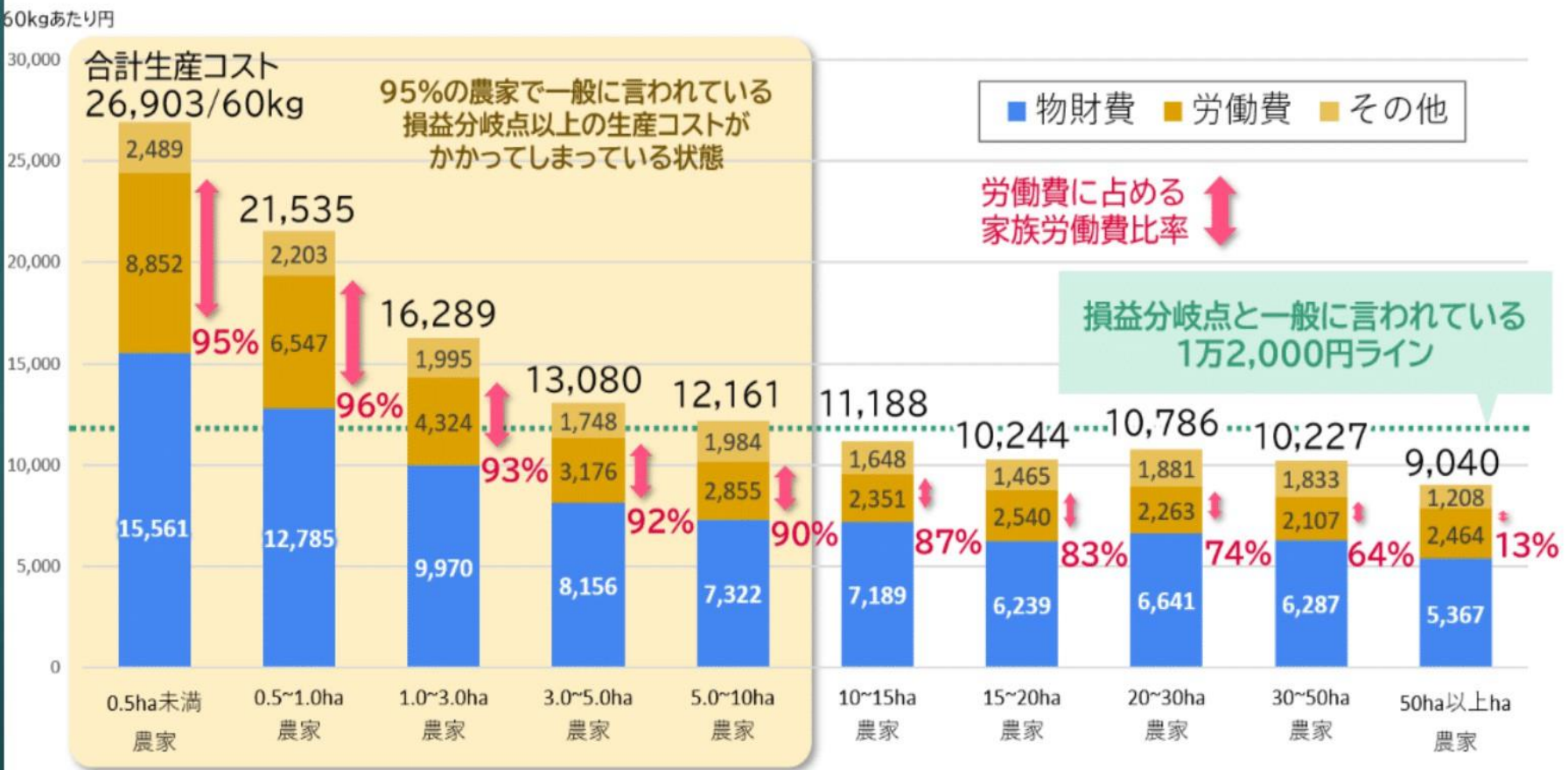


資料 : 農林水産省「農業構造動態調査」(2022年、2023年(概数値))

農家の内約7割が
米農家

2.米農家の実態

図2 コメ農家・経営規模別の60kgあたりの生産コスト



日本の米農家の
95%が
10ha未満の
小規模農家

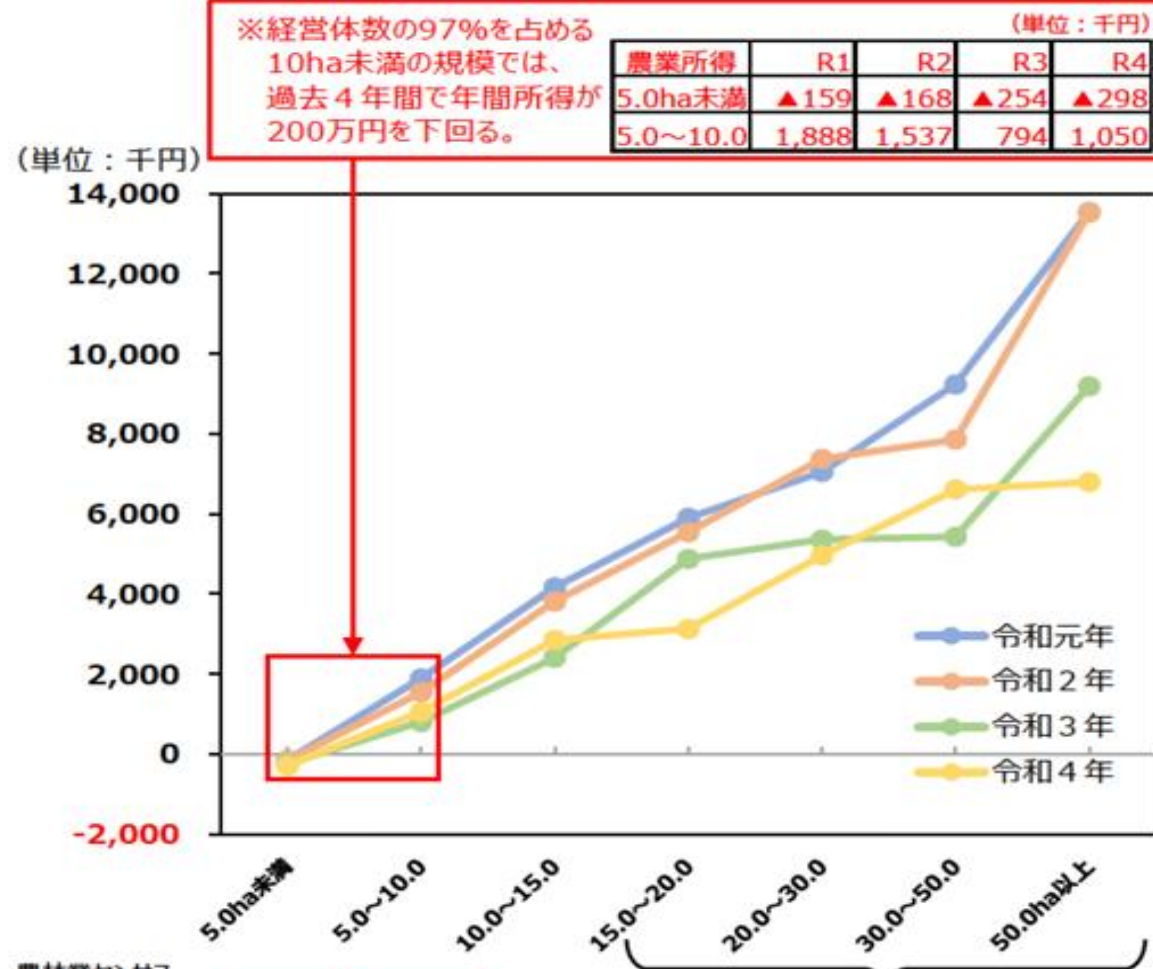
かつ赤字経営

さいたま市では
10ha以上の
農家はたった

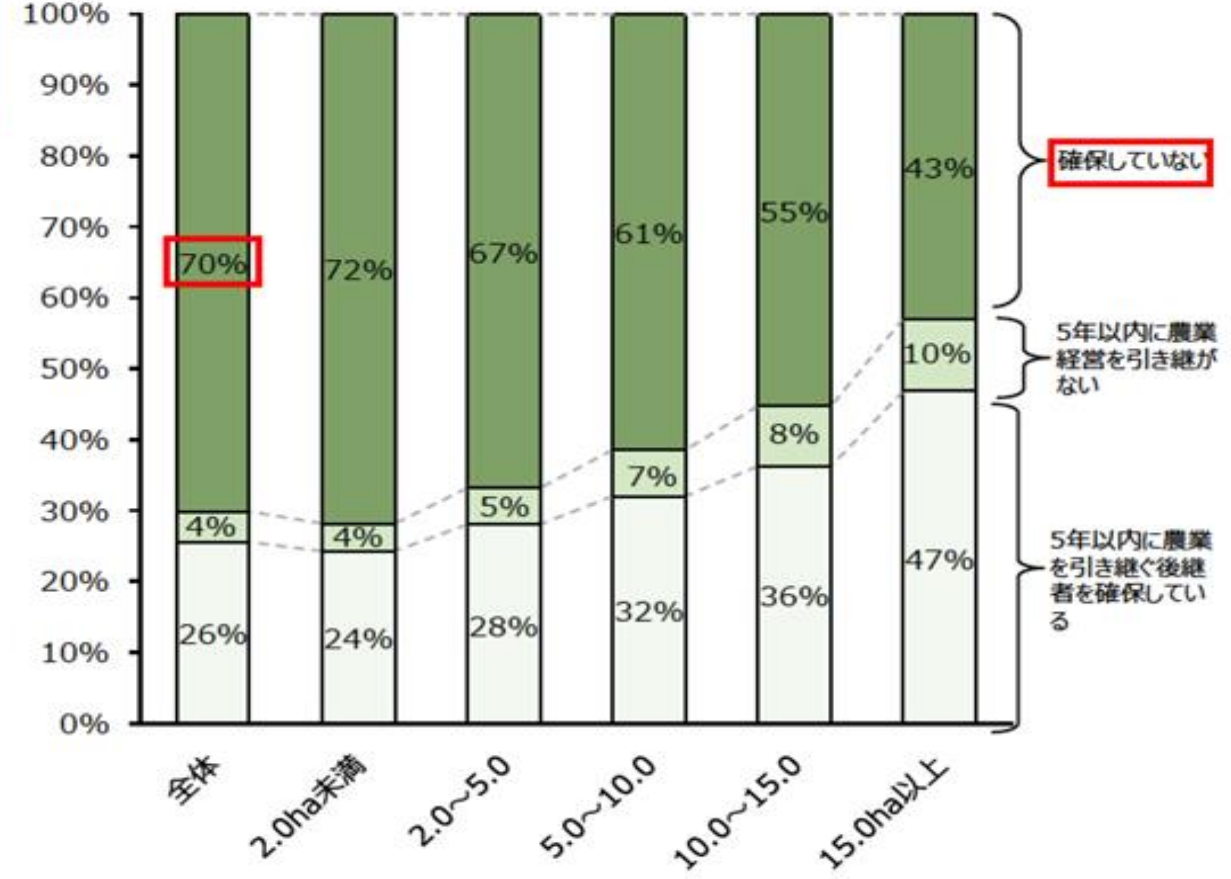
11戸
(全体の0.4%)

- 水田作の作付延べ面積規模別の農業所得を見ると、規模が小さい経営体ほど農業所得は低くなり、経営体数の97%を占める10ha未満の規模では、過去4年間で年間所得が200万円を下回っている。
- 水稲作付経営体における後継者の確保状況を見ると、水稲作付経営体全体では7割の経営体で後継者が確保されていない。（15ha以上の大規模経営体においても、約4割では後継者が確保されていない。）

農業所得（水田作作付延べ面積規模別）



面積規模別の経営体割合
(個人経営体及び法人その他団体経営体の合算)



農林業センサス
(2020年)における
経営体数及び構成比
(総数：713,792)

664,095 (93%)	28,002 (4%)	9,501 (1%)	12,194 (2%)
---------------	-------------	------------	-------------

- 水稲作付農家数は、平成27年から令和2年の5年間で約25%減少。
- 稲作の販売金額が1位である基幹的農業従事者の年齢構成をみると、稲作では特に高齢化が進んでおり60歳代以上が約9割を占める。

○ 農家数の推移

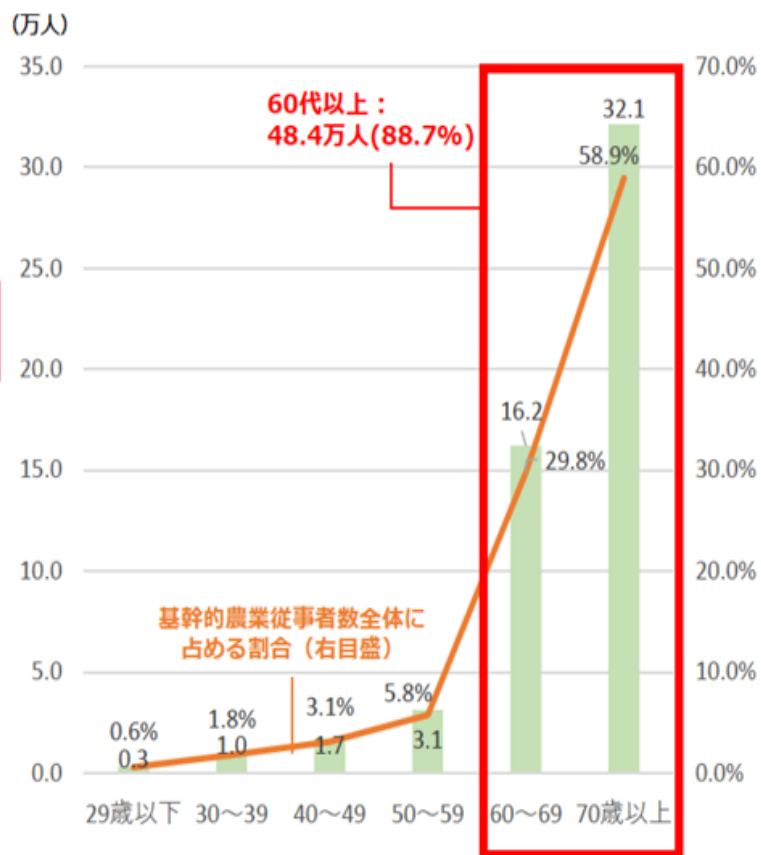
単位：千戸

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和2年/ 平成27年
総農家数	3,120	2,848	2,528	2,155	1,747	81%
販売農家数	2,337	1,963	1,631	1,330	1,028	77%
水稲作付農家数	1,744	1,402	1,159	940	699	74%
主業農家数	321	269	217	170	127	75%
準主業農家数	502	373	323	209	110	53%
副業的農家数	920	761	620	561	461	82%

【販売農家】 経営耕地面積が30a以上又は過去1年間の農産物販売金額が50万円以上の農家。
 【主業農家】 農業所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 【準主業農家】 農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 【副業的農家】 65歳未満の農業従事日数60日以上の方がいない農家。

資料：農林水産省「2020年農林業センサス」

○ 稲作の基幹的農業従事者数の年齢構成



資料：農林水産省「2020年農林業センサス」(組替集計)より作成
 各個人経営体における稲作の販売金額が1位である基幹的農業従事者を年齢構成別に集計

	2010	2015	2020	2015	2020	2025(予想)
米農家数	1744	1402	1159	940	699	520
対前回比		80%	83%	81%	74%	
主業農家	321	269	217	170	127	95
対前回比		84%	81%	78%	75%	18%
基幹的農業従事者数 (万人)					54.4	40.6
50歳未満 (万人)					3	2
					5.5%	5.5%

米卸売価格の低下

現状の米卸価格

200円/kg

VS

経費(報酬及び
減価償却費含まず)

250円/kg

赤字

標準反収8俵(約500キロ)
と仮定した場合...

1反当たりの収入

収入 = 10万円

経費 = 12.5万円

(しかも無報酬...)

2.米農家の実態

では、どうしたら良いのか！

- ▶ 答えは、**自然農（有機農業）**に有り
- ▶ 肥料・農薬に頼らない（経費節減、健康促進、免疫力向上）
- ▶ 多様な生態系が復活（温暖化ガスの低減、環境負荷の低減）
- ▶ でも、抑草できるの？生産量が激減するのでは？
- ▶ 日本の農業の99%が農薬、化学肥料に頼る慣行農法です！
- ▶ その打開策が、我々が実践する**「循環型有機微生物農法」**なのです。
- ▶ **草は生えない！反収6俵（360キロ）、しかも、美味しい！**
- ▶ これが、**「見沼の里」**が次世代に継承する**農業（稲作）**の在り方です。

日本の農業を次世代に継承 するためには



農家が生業と出来るプラットフォーム（基盤）が必要だと考えました。
農業だけで、飯が食え、誇りを持って米作りが出来る仕組み。
これは、非営利団体である、NPO法人には馴染まない活動であるため
新たに別組織（MOGA）を立ち上げることに致しました。
今後、見沼の里の活動と協調しながら、連携して進めて参ります。

日本食糧安全保障 創生ファンド MOGA 誕生

日本の農業を自然の生態系に
則したものに「身土不二」の
精神に立ち返る

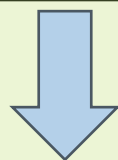
大調和の農業（稲作）を
実現

ファンド組成の目的

1. 自然と調和する農業（稲作）への転換（農薬は使わない）有機循環農業の普及
2. 農業（稲作）を誇り高い生業へ創生
3. 地産地消の実現（農家と消費者が直に繋がる）
4. **四方よし**（農家、消費者、生態系、支援者）の農業の実現：皆が農業を支え、皆が潤う大調和
5. 身土不二の農業、農本主義の社会を創出

Make OKOME Great Again

この現状において、
農業（稲作）を生業
とするには



- 所得を得られる職業と致すこと
（現在時給10円、年収1万円）
⇒ 年収500万円



中間マージンを減らし、消費者直販
物流コストの節減（地産地消）

自然農を大規模生産で行い、
食の安全を担保、生態系を保全

農業（米作り）を投資対象とする
金融商品を開発（日本初）

「日本食糧安全保障創生ファンド」
日本の農業をカッコよく

ファンド組成の目的
“農本主義の実現”

- 農業（稲作）を所得を生む持続可能な
生業とする
- 無農薬で安心安全な食（お米）を提供する
- 地場の生態系を保全し、再生する
- 革新的抑草技術により、草の生えない田圃を
実現
- 投資家へ十分なリターンを提供

「我々が目指すコミュニティ作り」

- ▶ 我々は、自ら安心安全な「食」お米を作ることによって、いざという時であっても、食べ物が確保されている安心感！それを皆で分かち合い、味わえる、そんなコミュニティ造りを目指しています。
- ▶ 貨幣経済が駄目になっても困らない、しかも、自然の生態系を壊さず、自然と共生する自然農を主体に。日々、天の恵みに感謝し、笑顔溢れる日常、皆さんも、この活動を通じて、是非、この幸せ“いやしろ”を味わっていただきたい。
- ▶ 見沼の里では、我々のこうした活動にご賛同いただける皆様方のご参加を心よりお待ちしております。



仲間を募集しています！

ご意見もどうぞ

MOGAについては、別途ご案内を予定しております。お楽しみに！

HP

NPO法人見沼の里

minumanosato.com